

発行所
広島市東区二葉の里
2丁目6-25
明星院
TEL 082-261-0551
FAX 082-262-1827

明星院だより



中門（福寿門）の扁額
（土生川錦石翁筆）



辛丑

元旦

福寿草と言えば頭に浮かぶのが、お正月の盆栽の寄植えではないでしょうか。名前の由来は旧暦の正月に花を咲かせるので床の間に飾られて、おめでたいということから江戸時代初期の頃から福寿という名前がつけられたと言われ、春の妖精とも呼ばれています。

早春の縁起草 福寿草



頌春 敬礼三宝

昨年は、節分が終わった頃だと思いましたが、突然世界中がいわゆる「コロナ禍」におおわれ、檀信徒の皆様には、ご自身はもとより家族・友人等を気遣い、生活の全てに、さぞかし緊張の毎日を余儀なくされておられることと拝察いたします。

振り返れば、九年前の東日本大震災や原発事故に際して、我々は日常を疑い、自らを確かめる言葉を求めました。特に「絆」は我々の心の支えになりました。ところがそれ以来毎年のように大災害が打ち続き、人々を忍耐努力に向かわせることが後を絶ちません。これはあるいは人心が向かうべき新しい境地を考えるきっかけになったとも思われます。

こうした昨今の情勢をふまえ、当山の諸行事につきましては、新型コロナウイルス感染拡大防止のため例年とは違った執行となります。今後は推移を見ながら判断することになりますのでご理解ご協力をお願い申し上げます。一刻も早い終息を願い、春を迎えて暖かくなった頃には、恒例の法要や行事等が滞りなく行われることを祈るのみであります。

本年が皆様にとりまして平安な年になりますよう、ご本尊様お大師様の御宝前にぬかずいて願いあげます。

《只今募集中》 四国遍路《讃岐之国・高野山》

第九期第四回巡拝

- ◇日程 5月10日(月)～5月13日(木)(三泊四日)
- ◇定員 15名
- ◇会費 50,000円
- ◇申込 4月25日までに当山へ
(但し、定員になり次第締め切ります)

巡拝日程表	
5/10 (月)	広島駅＝《山陽道・瀬戸大橋》＝70) 本山寺＝68) 神恵院69) 観音院＝71) 弥谷寺＝72 曼荼羅寺＝73) 出釈迦寺74) 甲山寺＝76) 金倉寺＝75) 普通寺(泊)
5/11 (火)	宿坊＝77) 道隆寺＝78) 郷照寺＝79) 天皇寺＝81) 白峯寺82) 根香寺＝80) 国分寺＝83) 一宮寺＝84) 屋島寺85) 八栗寺＝ホテル
5/12 (水)	ホテル＝86) 志度寺＝87) 長尾寺＝88) 大窪寺＝(徳島道) 徳島港～フェリー～和歌山港＝高野山＝無量光院(泊)
5/13 (木)	宿坊＝奥之院・伽藍＝〈近畿道・山陽道〉＝広島駅

※巡拝の順序や旅程は、道路事情天候等により多少変更されます。

(学)明星院学園ニューストピックス

二葉幼稚園の平成17年度卒園児、中石葵さんが「天音」として昨年九月に宝塚歌劇団第一〇六期生の初舞台を踏みタカラジェンヌとして第一歩をスタートしました。雪組への配属が決まり、本年一月一日より宝塚大劇場で公演が始まっています。何処かでお目に止まることがありましたら是非応援をお願いします。

令和三年 明星院行事予定表

一月一日～三日	修正会・新年初祈禱
一月三十一日	開運厄除祈願節分星祭
三月二十日	春季彼岸会
五月十日～十三日	四国八十八ヶ所・高野山巡拝
八月上旬	お盆勤め
八月十三日	うら盆施餓鬼会
九月二十三日	秋季彼岸会
十二月十二日	赤穂義士討入り大祭

編集後記

〈数珠で嬰撫でて初護摩終りけり〉
☆山主、多くの推挙を賜り昨年一月一日付で中国地藏尊霊場会々長を仰せ付けられました。皆様のご協力をお願い致します。☆このたび、仏縁をいただき昨年三月一日付けで高野山真言宗龍藏院(東区牛田東)の住職を拝命いたしました。毎月一日と十六日の縁日には祈願会に出仕しています。今後ともよろしくお願い致します。



金剛峯寺に於いて葛西光義管長猊下より辞令を親授さる



☆「いつもとは違う」「本来であれば」挨拶の中でよく使われるようになった言葉です。一日も早く、「元の通りに」心の底から笑える日が来てほしいものです。☆五日より寒に入ります。皆様のご自愛をお祈り申し上げます。

第3期第1回目巡拝
平成6年3月27日
於、鯖大師本坊

「この期は別格霊場
20ヶ寺を加える。」



第3期第4回目巡拝
平成9年3月28日
於、高野山奥之院

第4期第2回目巡拝
平成11年3月25日
於、第31番竹林寺



第4期第3回目巡拝
平成12年3月29日
於、第66番雲辺寺

ゆくも帰るもどまるも
我は大師と二人づれ
罪もなやみもいっしかに
消えてはれゆくわが心
ああありがたや
南無大師遍照金剛

お大師さまの慶事を継続

大師号下賜千百年諡号奉讃（令和二年）から
御誕生千二百五十年嘉辰（令和五年）へ

昨年は、空海上人が「弘法」の大師号を第六十代醍醐天皇から下賜されて数えて一一〇〇年の記念の年に正当しました。

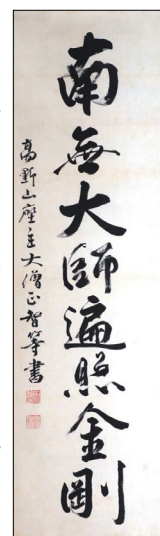
延喜二十一年（九二一）十月二十一日、時の帝・醍醐天皇の夢枕に一人の僧がお立ちになり、「吾が衣弊くちはてり、願わくは宸恵を賜らんことを請う」（衣が傷んだためにどうか新しい衣を頂きたい）とお伝えになりました。

醍醐天皇は東寺長者の観賢僧正にご相談されたところ、高野山にて御入定された空海上人のことを伝え聞き、新しい衣と合わせて「弘法大師」の諡号をお贈りになることになりました。十月二十七日、勅使少納言平惟助卿が高野山に登り、奥之院御廟前にて詔勅奉告式が執り行われ、以後、空海上人は弘法大師として今も常に私たちを見守って下さっています。これに先立つこと三年前の延喜十八年、仁和寺を開創され空海上人の直系の五番目の弟子とされた宇多法皇は、長男である醍醐天皇に対し、熱勢を込めた書状を送られその遺徳を讃えられました。こうした各方面の懇願の意思が達しまして、御入定八十七年後にありがたく大師号の勅許を戴くことが出来たのであります。伝説によれば、その夜、帝の夢枕に弘法大師が降り立たれ御声静かに詠まれたお歌が「高野山結ぶ庵に袖朽ちて苔の下にぞ有明の月」という有名な御詠歌です。

日を空けず、帝は急ぎ臣下に命じ、松皮色の衣と袈裟一領を下賜されることになりました。再び勅使平惟助卿、下賜御衣師の藤原扶閑卿、随行僧として観賢が弟子の淳祐を伴って高野山へ登られました。奥之院御廟前の広庭は、勅使一行と金剛峯寺の名だたる僧侶方で埋まり、お衣替えの儀式が執り行われました。御下賜の御衣と袈裟をお供えし、懇ろに御法樂を捧げ奉りました。

名残を惜しんで立ち去ろうとした観賢が、感涙に咽びながら奥之院を後にして、無明の橋にさしかかろうとした時、今一度振り返ると奥の奥の奥からふと人影を感じ取り、臆気ながら聞こえてきた言葉が「我は今、汝の仏性を見送りに来た」とうっすら聞き取れました。「仏性」とは仏様になる種。観賢の心の中に備わっているその種をお大師様が見送りに来られた感じとられました。余りの勿体なさに、思わず跪き、五体投地して、涙々々の中で膝をかきむしり袖を絞りながら、心の奥底から出た言葉が『南無大師遍照金剛』の御宝号なのです。この「遍照金剛」は、若き日の空海上人が命をかけて唐に渡られた時、師僧の恵果和尚から授けられた灌頂名、それに賜った「大師」を合せて心の叫びとして思わず発せられたのでした。

こうして私達は、今日当たり前のようにお大師様を敬い御宝号をお唱え出来るようになったのです。



高野山管長 智等 筆（当山二十世住職）

四国八十八ヶ所霊場巡拝結願へ

三月に入ると春つららかな四国霊場は、全国各地よりバスを連ねる団体や、自家用車を走らせる家族連れ、又歩いて訪れる同行二人のお遍路さんで活気を帯びてきます。当山では、春の彼岸明け三月下旬に巡拝を計画し、昭和六十一年第一回阿波之国より本年九巡目第三十六回を数え、山主の発心巡拝と合せて四十年十回目を終えようとしています。今回でひとまず休止することに致しました。

思い起こせば、真つ青な大空、紺碧の海太平洋、緑豊かな大地、中央に堂々とそびえる山々、変化に富んだ自然の中に心の通う人との出会いの中で自分自身を感じ、お大師さまをいつも心に感じ、共に修行をする。四国を巡拝すると不思議にそれが自然なのです。

わが国の巡礼のメッカとして、巡拝する人の心の安らぎと、人間の性の回復の場であり、家内安全・病氣平癒・家業繁栄・諸願成就を願う人、親や子孫の病氣の代参に來ている人、重なる不幸に悪い因縁を除いていただくように願う人、亡き親や子の菩提を弔う人等、人々の魂を引き付けるものがありました。昨年までで延べ人数九四四名が同行二人のお遍路さんとして御縁を結んでいた感謝申し上げます。

当山山主は弘法大師御入定一一五〇年御遠忌の年、昭和五十九年一月二十一日に、お大師さまへの報恩謝徳と檀信徒を先達しての霊場巡拝成就を祈念して徒歩巡拝を発願し、三月十三日高野山への御礼参りを経て結願致しました。



於、高野山無量光院
師僧と共に

四国遍路思い出のアルバム



第1期第1回目巡拝
昭和61年3月30日
於、第23番薬王寺



第1期第4回目巡拝
平成元年3月27日
於、第75番善通寺
「蓮生管長猥下と共に」

同行二人のご誓願 胸にいだきあいともに
みあとをしたいて西東 霊場めぐるうれしさよ

来る令和五年は、お大師さまが宝亀五年（七七四）に御誕生されて一二五〇年目の記念の年に正當します。

宝亀五年のみな月に

紫雲たなびく朝ぼらけ

常世の闇を破りつつ

産家に清き声ありき

この讃歌によって伝えられるように、お大師さまは今から千二百年の昔、讃岐国多度郡の国司、佐伯善通卿と玉依御前の間にお生まれになりました。時は光仁天皇の御代、青葉かおる宝亀五年六月十五日の黎明でした。この地は北におだやかな瀬戸内海が塩飽の諸島を浮かべ、東に広がる讃岐平野の真中にくっきりと讃岐富士がそびえ、西は五岳山と呼ばれる山々がとり囲んでいる、今の香川県善通寺市です。伝説によると「父母の夢に聖人、天竺より飛来して懐に入って妊娠し、十二月月を経て誕生す」とあり、一説には、この聖人は密教第六祖の不空三蔵であったといわれています。

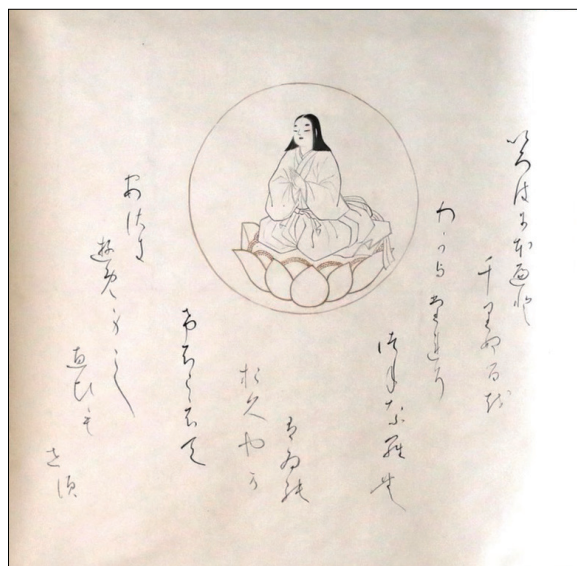
都から遠く離れた讃岐の地に、当時の民衆に渴仰されて止まない文化と宗教の祖として、お大師さまが明星のように御誕生になったのも、偶然ではなかったと思われるのであります。

南無大師 生まれ給いし よき日をば

いざや祝わん 幾千代までも

南無遍照尊 南無遍照尊

大師堂建立（諡号奉讃記念の発願から御誕生嘉辰記念の落慶へ）



稚児大師像
賛いろは歌

この度、当山では、お大師さま慶事の記念事業として本堂向って右側の空き地に大師堂を新築する事を発願いたしました。このお堂は、奥殿に安置し檀信徒の皆様へ使用して頂いている納骨棚が好評につき既に完了しており、第二の納骨棚も併せて設置できるよう兼ね備えている建物です。詳細につきましては次号にてお知らせ致す所存です。

合掌